

6年目を迎えた人工光合成研究拠点事業

「人工光合成研究センター」は、本学で先端的な光合成・人工光合成研究を進める教員と、関連する企業とが共同講座・部門を組織し、これまで夢の技術とされてきた人工光合成を加速的に実現させる産学官連携拠点として、2013年6月に設立されました。日本国内では「人工光合成」と銘打った建物・設備を伴う唯一の産学連携研究センターです。2016年度からは文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点「人工光合成研究拠点」として事業を進めており、これまで蓄積してきた本学の光合成・人工光合成研究成果を基盤とし、内外から次世代エネルギー創製・環境問題解決を目標とした光合成・人工光合成に関する基盤技術を結集した研究拠点として広く活用可能な施設として活動してきました。

主な事業として、2016年度から2020年度の5年間共同利用・共同研究課題公募を実施し、延べ105件の共同研究を実施してきました。

また、人工光合成研究拠点では2016年から人工光合成、再生可能エネルギー、二酸化炭素利用技術研究に携わる第一線の研究者を招いて講演会を実施してきました。2020年度までで延べ18回の講演会実施の実績があります。

加えて拠点認定時から毎月1回のペースで拠点の活動に関するニュースレターを日本語・英語で発行してきました。

2019年度からは人工光合成研究拠点の国際研究拠点としての機能強化をするべく、拠点運営委員に人工光合成、再生可能エネルギー、二酸化炭素利用技術研究に携わる海外の第一線で活躍する研究者を加え、相互の拠点間の情報交換事業を開始しました。国際交流としては

National Taiwan University の Center of Atomic Initiative for New Materials (AI-MAT)との研究交流協定も締結し、本格的な人工光合成、再生可能エネルギー、二酸化炭素利用技術研究に関する国際共同研究が進む段階に来ております。

2020年度には正式に部局化され人工光合成研究センターは専任教員4名で組織する基盤研究系の4つの研究部門と企業等の出資による3つの共同研究部門から構成される組織体制に変わりました。

加えて、2020年度からは北海道大学触媒科学研究所・東北大学多元物質科学研究所・国際放射光イノベーションスマート研究センター・分子科学研究所・独フリッツ・ハーバー研究所との連携を開始し、11月からは共同でのオンライン国際セミナーを開催し、「触媒」をキーワードとしてさらに多様な共同研究に対応すべく活動を進めています。

さて、2021年度は文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点「人工光合成研究拠点」の認定期間6年の最終年度になります。これまでの6年間の拠点活動の成果をまとめることとなります。現在、2022年度から北海道大学触媒科学研究所と産業技術総合研究所と人工光合成研究センターで新たな連携研究拠点形成を計画しております。

最終年度となる2021年度の人工光合成研究拠点の活動にぜひご注目ください。

(今月の担当は天尾豊センター所長でした)

人工光合成研究拠点
ニュースレター
第6巻・第2号
2021年5月18日発行
発行責任者：天尾豊
(人工光合成研究センター所長)
編集責任者：吉田朋子(同副所長)
拠点HPは [こちら](#)

